

ORIGINAL EROTIC FANTASY COMIC

THE ROVER TOWER

さまよえる塔の 丸呑みミミック



異種姦 孕ませ 丸呑み 触手 膨乳 首挿

A MONSTER "MIMIC" THAT MIMICS TREASURE CHESTS. IS IT POSSIBLE TO GET TREASURE, OR...?

OVER 18 ONLY
らぼた工房

W e l c o m e
t o
L A R V A T U R S



はあはあ

あはあ……
気持ちイイ
よお



いきそう……

いったら
ダメなのに

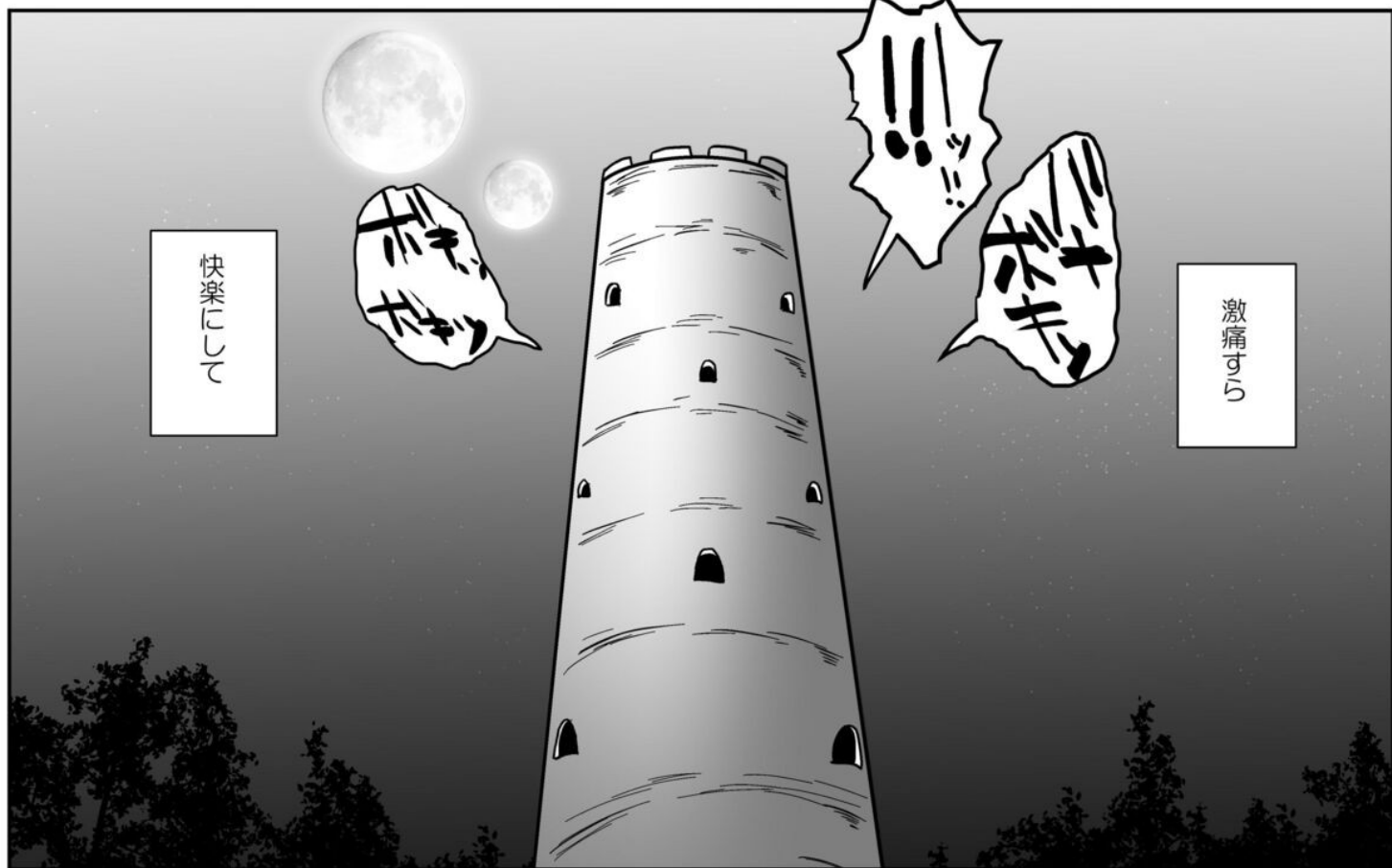
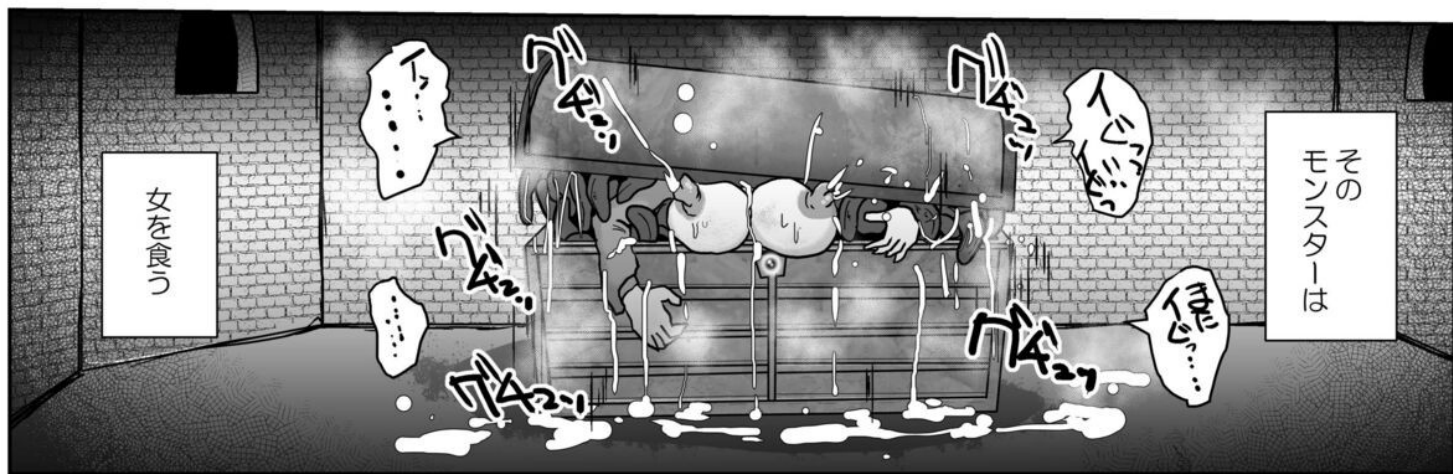
いったら
ダメ……

ナナミ(魔法使い)



イクッ
イクッ

あっ!!





「彷徨える塔」

本物の「月の塔」よ

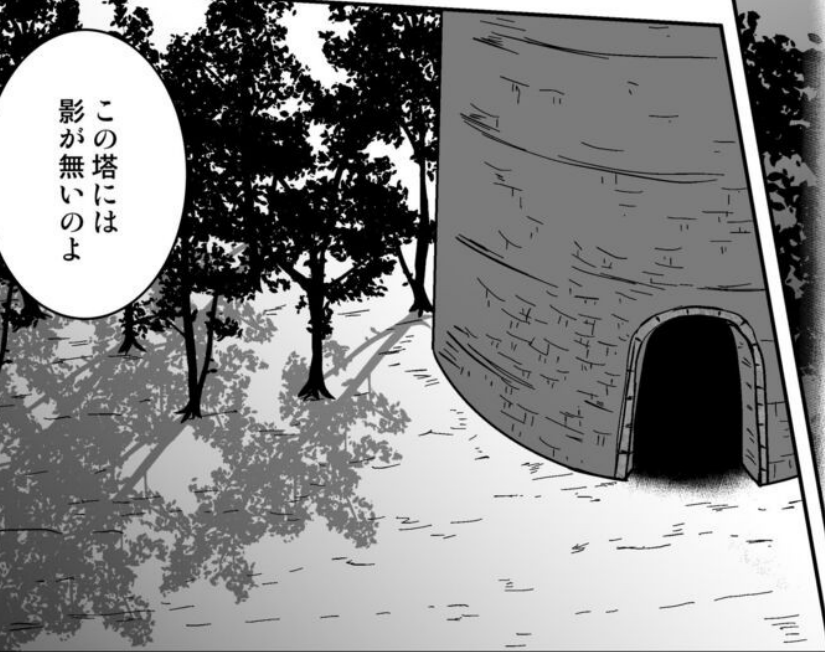
きまぐれに現れては消える



あ気が付いた?

そう

ボルック(伝令係)



この塔には影が無いのよ

アウラ(高位魔法使い)

驚いた
本当に出てる

「集合知」ってなんでも書いてあるのね

「存在してゐるのに存在してゐない」の

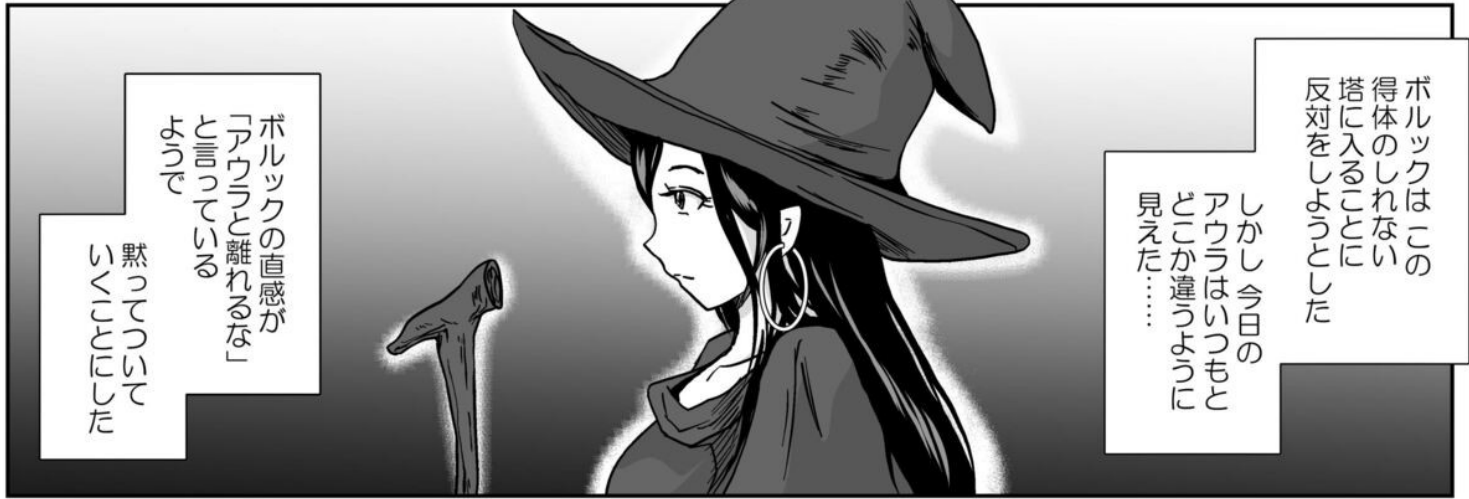
物質と非物質
時空の狭間を漂う
不思議な塔

ほおっておくとすぐ消えちゃうの

さあのんびりしている時間は無いわ

行きましょう

*「集合知(デラ・コンターロ)」: 多くの冒険者の知識が反映される情報端末

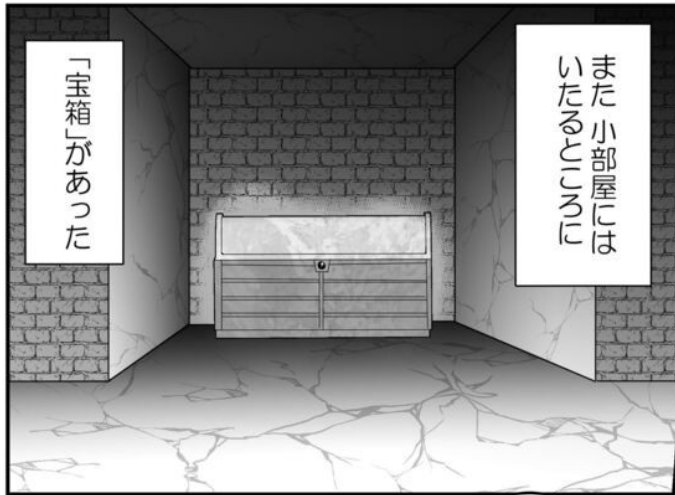


ポルックはこの
得体のしれない
塔に入ることに
反対をしようとした

しかし今日の
アウラはいつもと
どこが違うように
見えた……

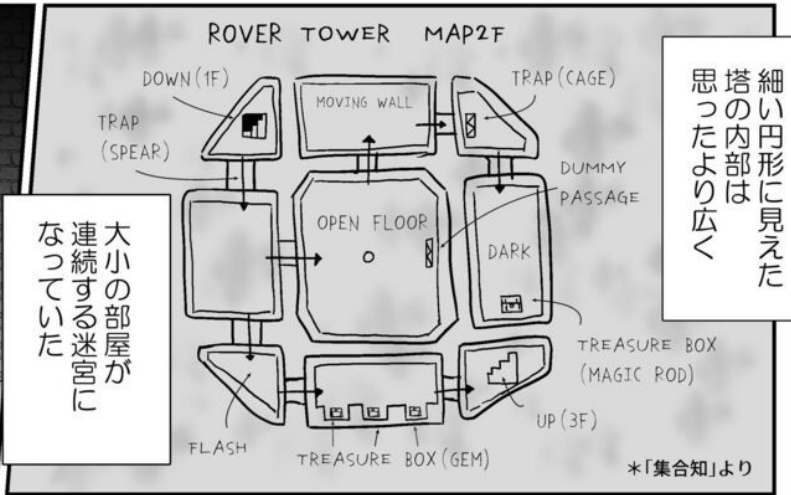
ポルックの直感が
「アウラと離れるな」
と言っている
ようだ

黙ってついて
いくことにした



また小部屋には
いたるところに

「宝箱」があった



細い円形に見えた
塔の内部は
思ったより広く

大小の部屋が
連続する迷宮に
なっていた



だから特に
ソロの
魔法使いに
とっては

夢の稼ぎ
場所

一獲千金



この塔の中は
貴重なアイテム
だらけなの

「狩」に行く
魔法使いは

モンスターを
魔法で仕留めるから
「ドロップ」が
手に入らないでしょ



アウラは的確に
正しいゲートを
選び

上階へと
足早に
進んでいく

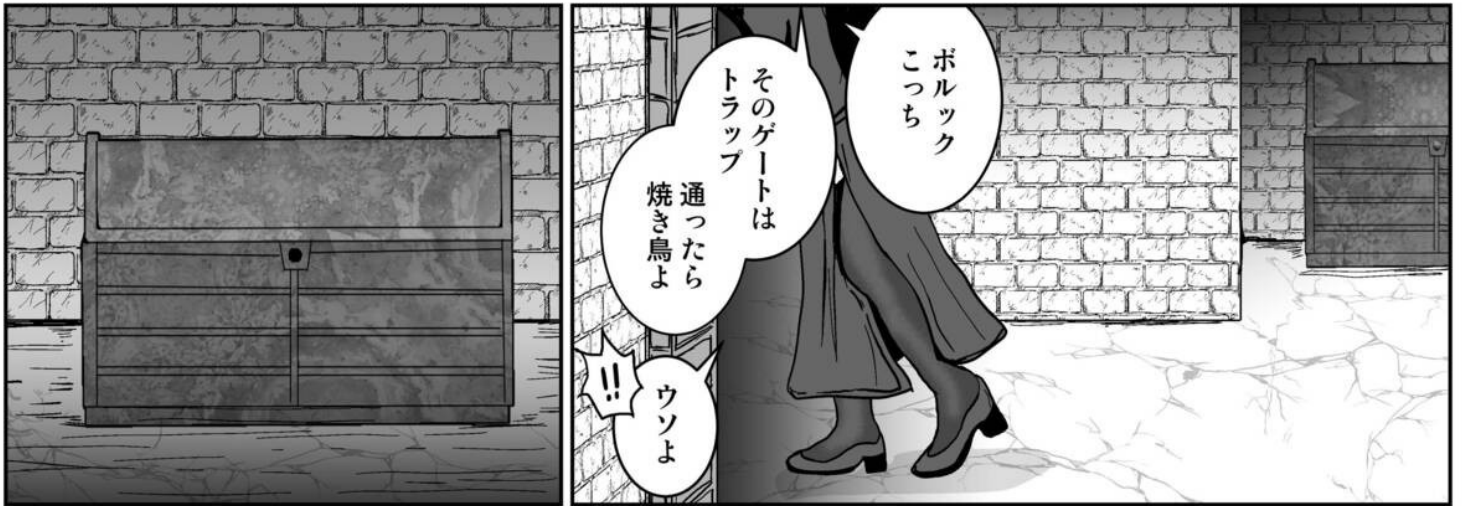
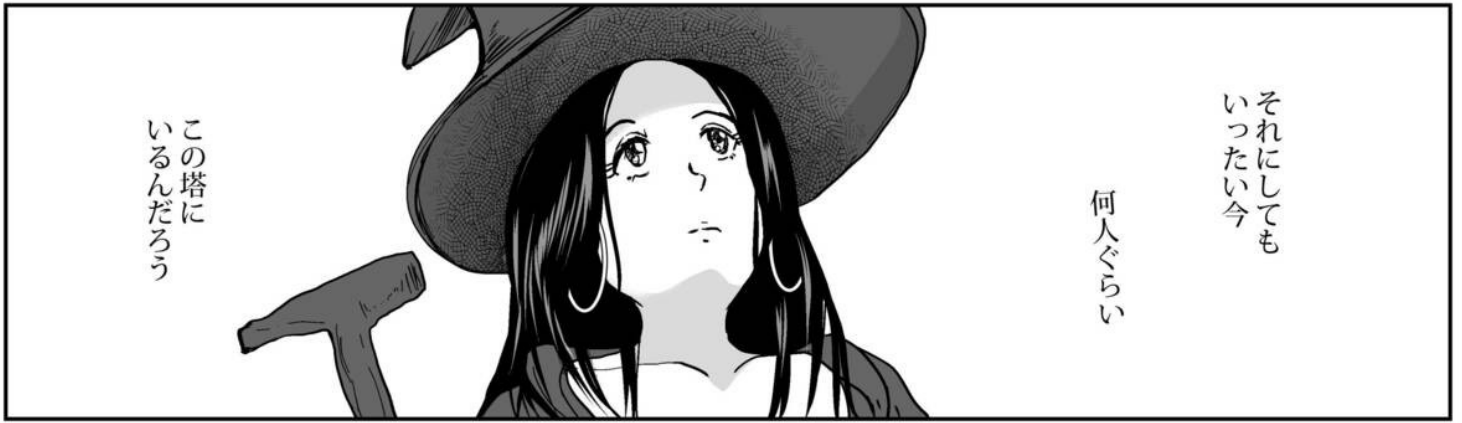
宝箱は
また今度



なのにアウラは
一切宝箱に
興味を示さなかった

宝箱に
近づいちゃ
ダメよ

*一般モンスターを魔法で仕留めると、ドロップアイテムごと消えます。





宝箱は「ミミック」だった

あーあーあー

細く見える触手はものすごい力で

軽々と女を引き寄せる

んんん

んんんんんんんん



触手の中の「触根(性器)」は

女の口に精液を注入する

女の体を「食える状態」にする為だ

んんんんんんんん

んんんんんんんん

女はすぐに
膨乳した
乳首からは
母乳が吹き出る

女のカラダが
強烈な快楽を
得ている証拠だ

この女は母乳が
よく出る
よほどこれまで
モンスターに

乳首を
犯されて
いるのだらう



女は 快楽で
痙攣しながら
簡単に孕んだ

犯され慣れた女は
マナの質こそは
良くないが
カラダの感度は高い

あつという間に
「食へん」だ

ミニミックは
自分よりも
大きな獲物を
呑み込んでいく





女は「情報として」知っていた筈だった

「いったら呑まれる」そして

ミミックに呑まれたらどうなるか……



絶望すら快樂に変わっているのか

女は更に何度も絶頂しながら

ミミックの中に呑み込まれていった



アイテム目当ての魔法使いが侵入してるわ

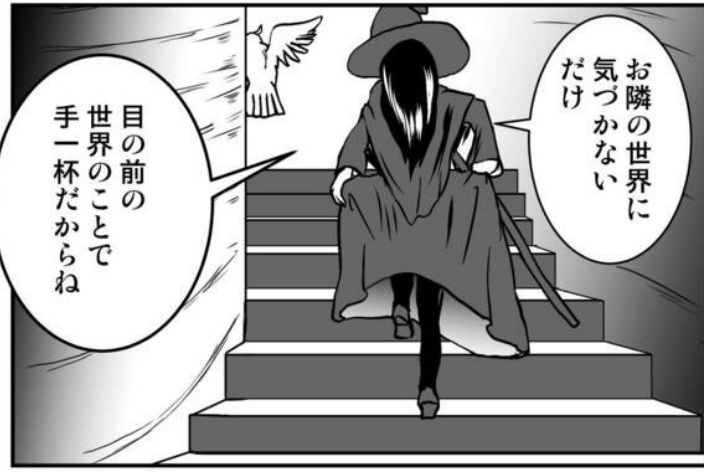
同じ場所で同じ景色を見てるけど

侵入者同士が会える事はない



そう次元がズレてるのよ

多分いまこの塔には多くの冒険者や



目の前の
世界のこと
手一杯だからね

お隣の世界に
気づかない
だけ



他の世界が
並行してるのよ

そんなに
珍しい事じゃ
ないわ
私たちが
世界だって



魔法使い
垂涎のアイテム
宝箱にすら
入ってない
なんて……

「オーブ」よ



うわ
露骨

アウラたちは
塔の中腹あたりへ
と進んだ



未熟な
魔法使いでも
かなり
ハイレベルの
魔法が使えるわ

見たところ
ばっちり
本物ね
あのオーブを
手に入れることが
できれば



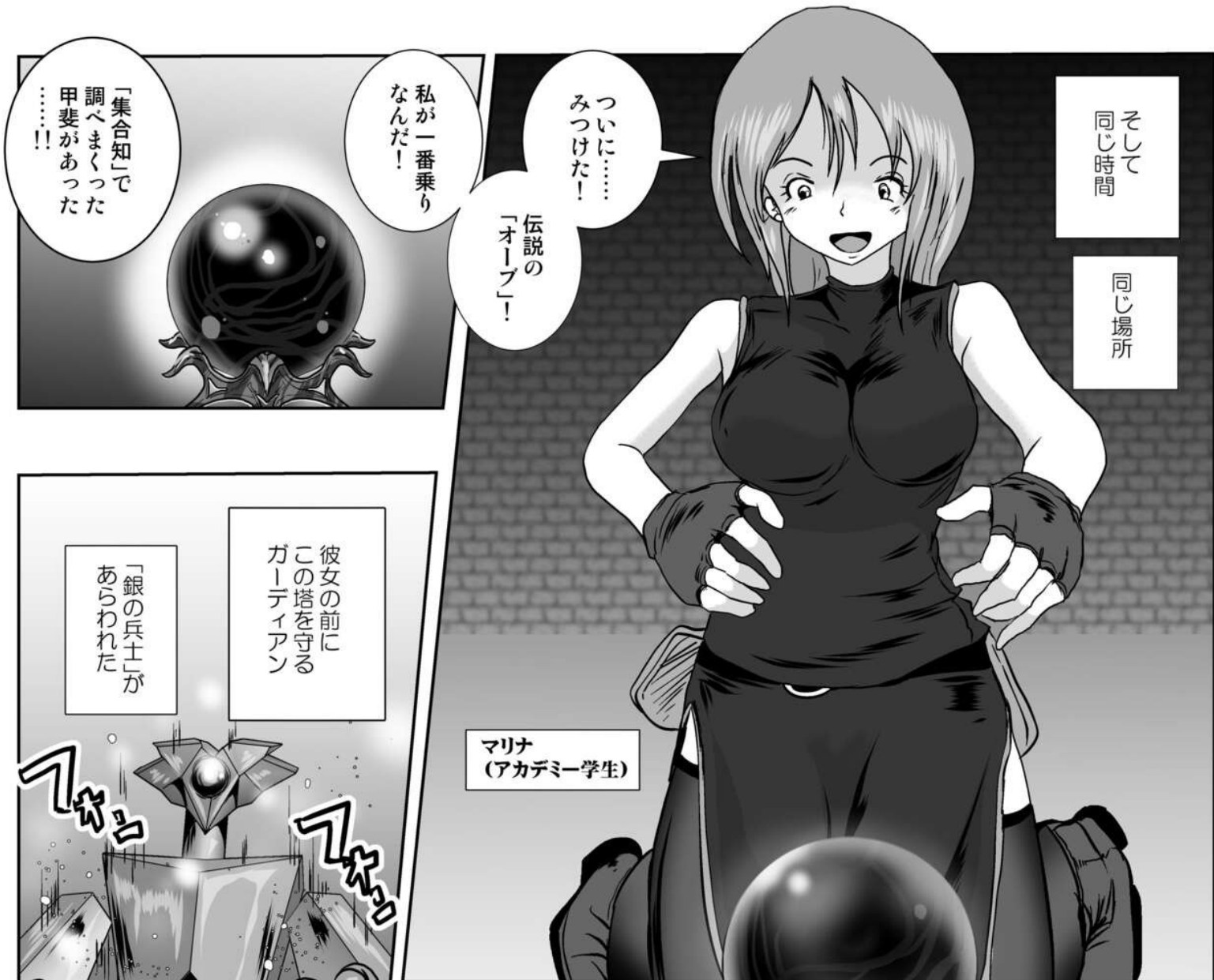
「情報」を過信
しすぎると
目の前にある
モノについて
自分の意見を
持たなくなる

「集合知」のおかげで
誰でも 有益な情報が
簡単に手に入るよう
なったけど



そういう
ものの

……でもね
あれは手に
入らないわ





何度も何度も
いかされ

絶頂に
喘ぐ

あーあーあー

はあ

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー



部屋の隅では
一匹のミニミックが

口を開けて
待っていた

ニャル

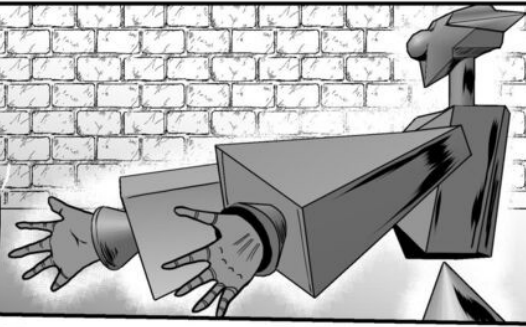
ニャル

ガッガッ

ミミックに
ほおりこんだ

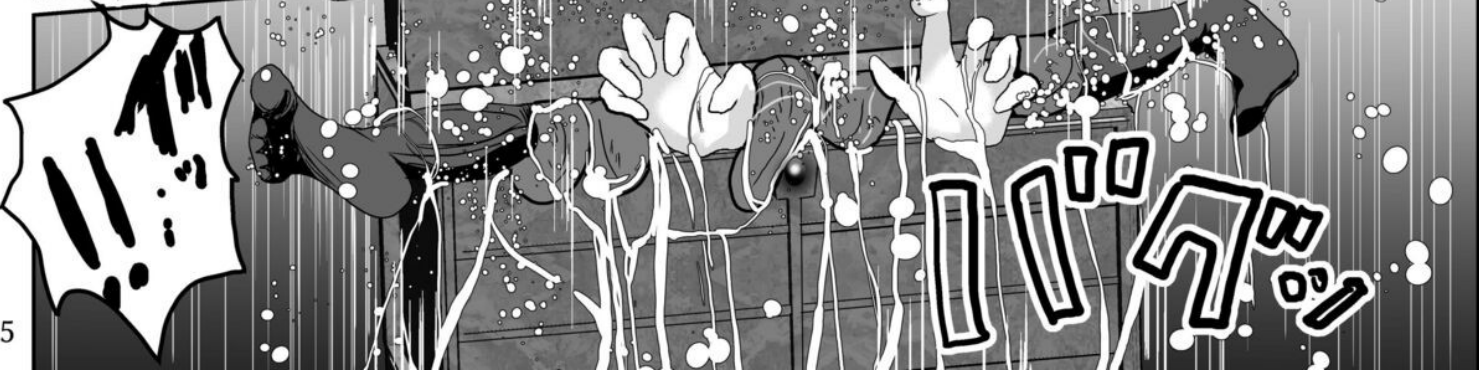
銀の兵士は
快楽で
痙攣する女を

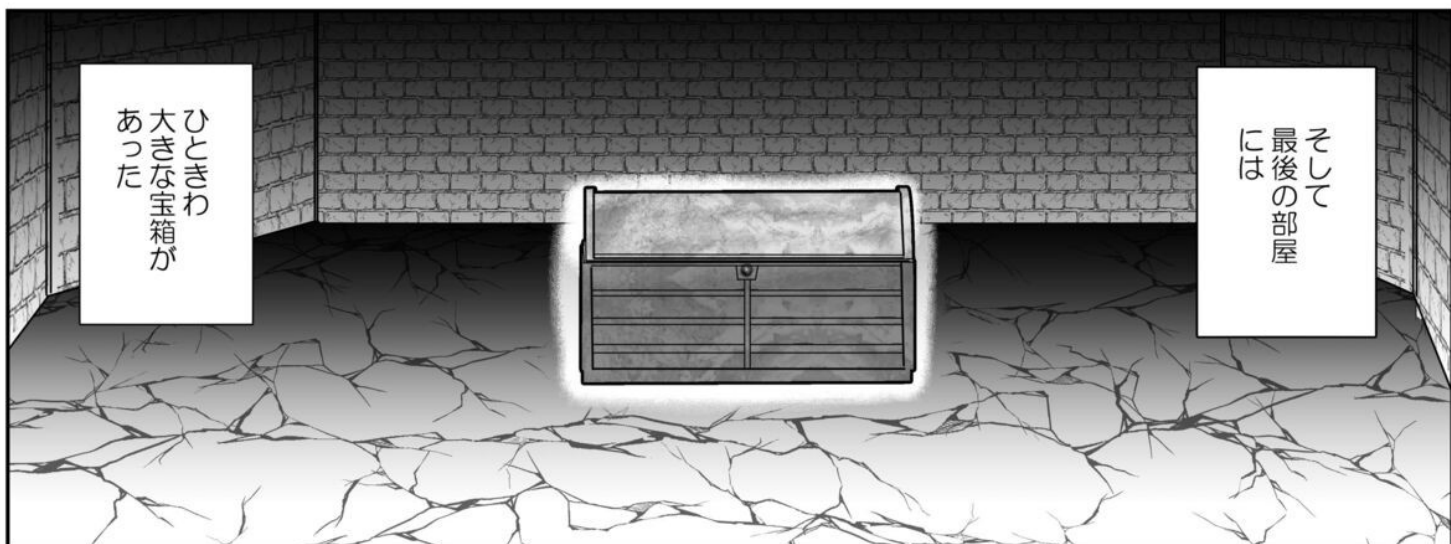
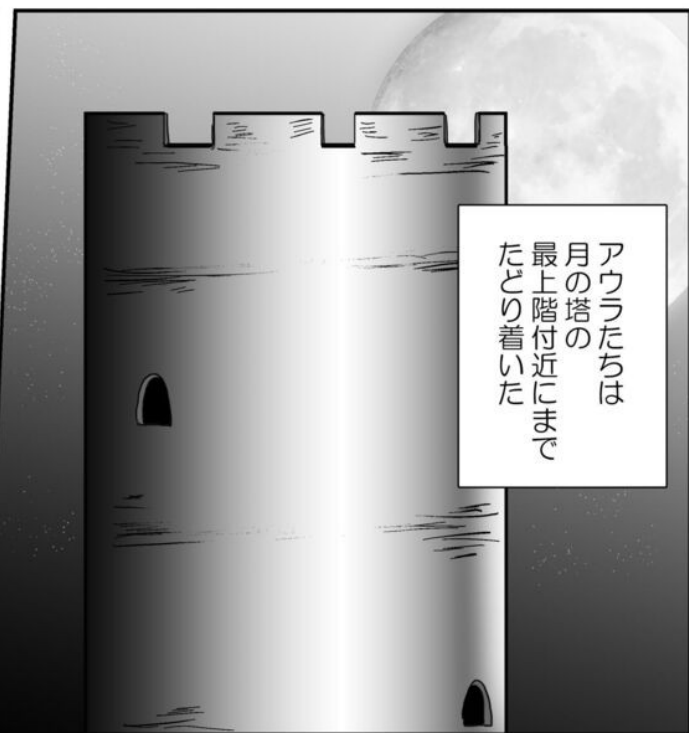
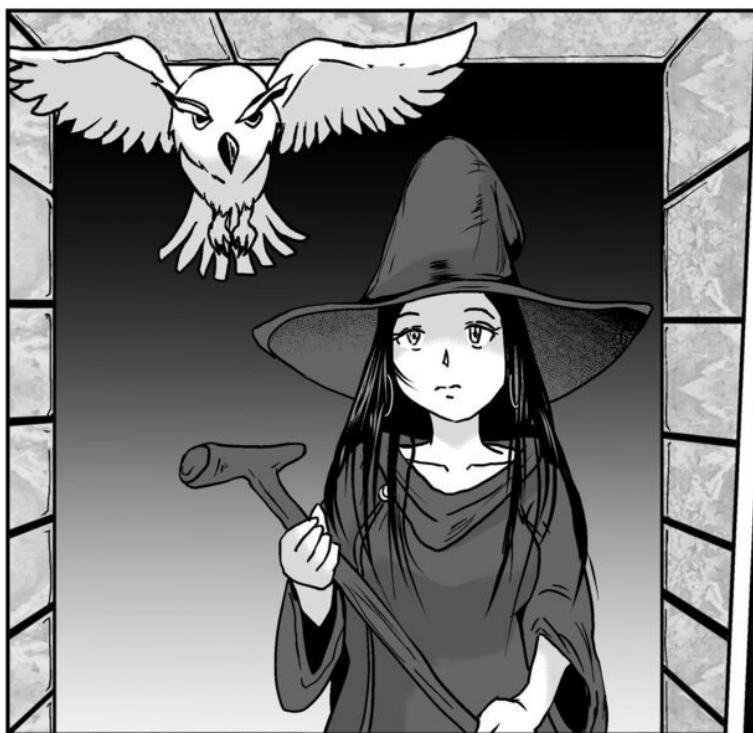
ゴウ
ゴウ
ゴウ

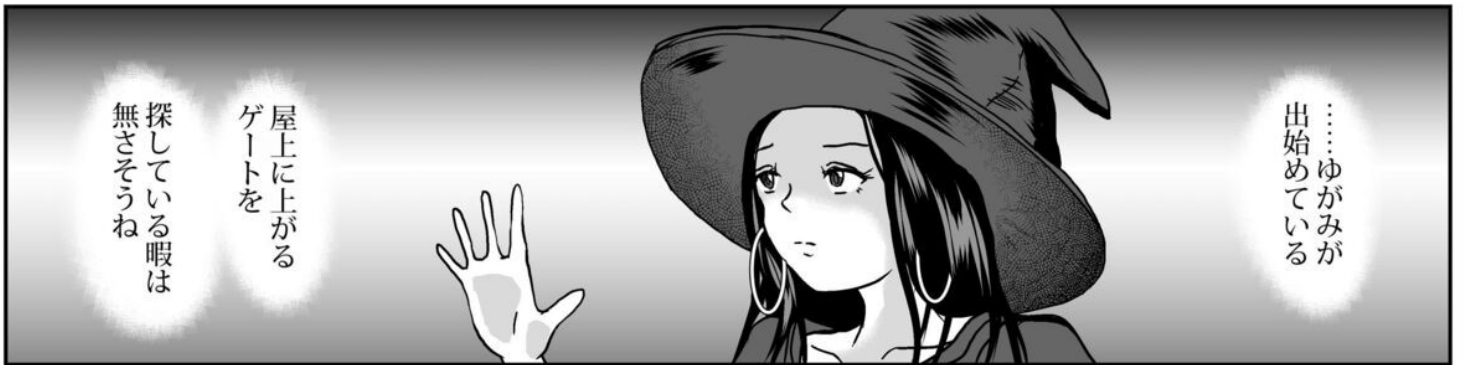
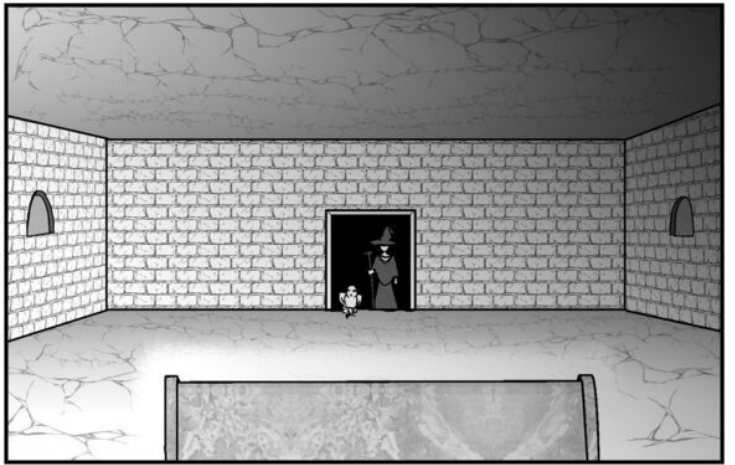


まっ……

まっ……









この塔に来た目的は「上位宝珠」を手に入れる事です

恐らくこの塔の屋上で月の光を浴びています

ポルック
あなたにその石をとって来てほしいの

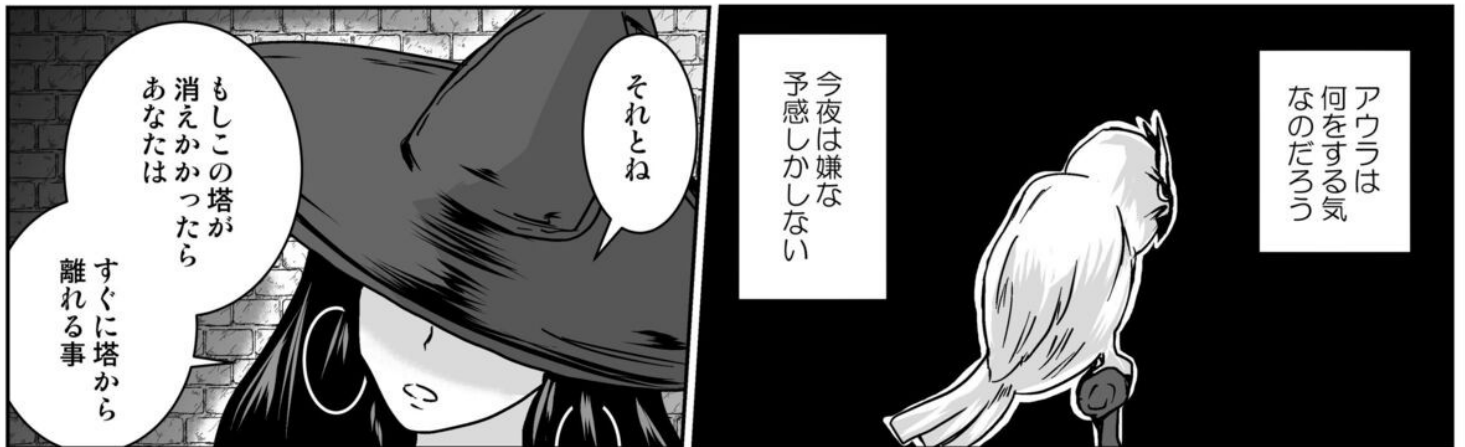
大丈夫
難しい事は
ないわ



でもね
もう時間が
あまりないの

だから私は
あなたが石を
見つけられるように

時間を
稼ぎます



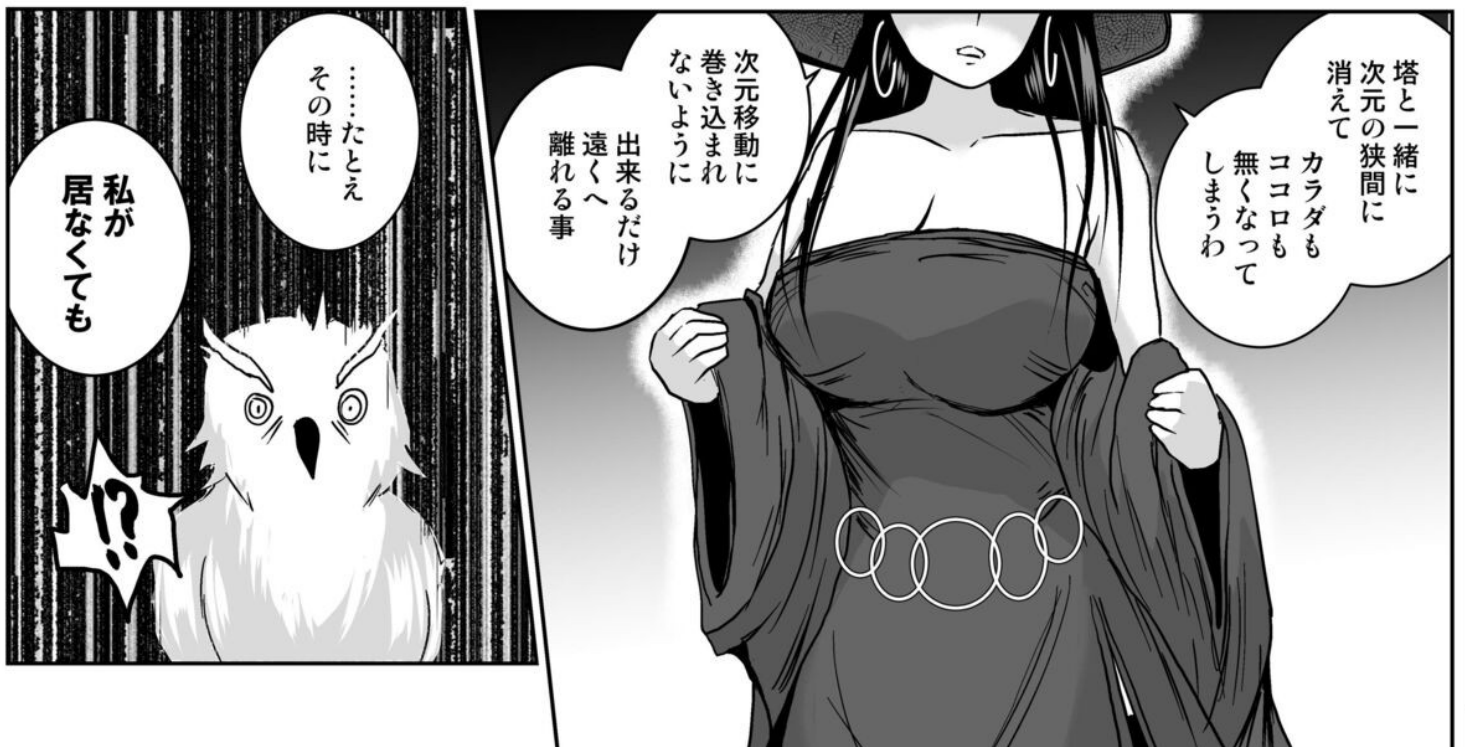
アウラは
何をする気
なのだろう

今夜は嫌な
予感しかしない

それとね

もしこの塔が
消えなかったら
あなたは

すぐに塔から
離れる事



塔と一緒に
次元の狭間に
消えて

カラダも
ココロも
無くなつて
しまうわ

次元移動に
巻き込まれ
ないように

出来るだけ
遠くへ
離れる事

……たとえ
その時に

私が
居なくても



大丈夫よ
私が冒険で

へマした
ことある？

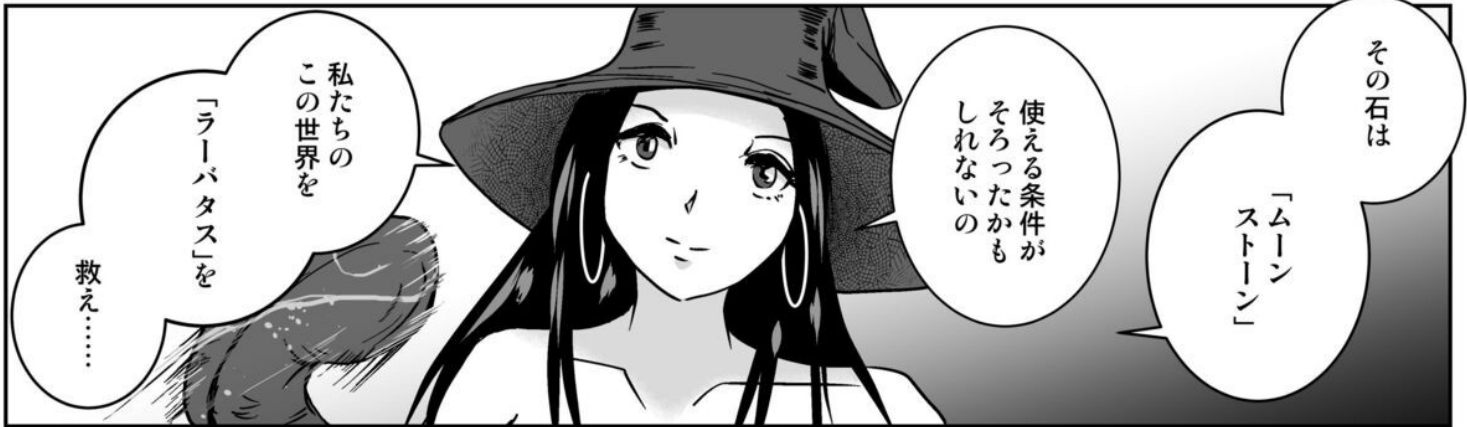
そこにある!!



ボルックは
猛抗議した

アウラは何か
危険な事を
しようとしている

落ち
着いて



その石は

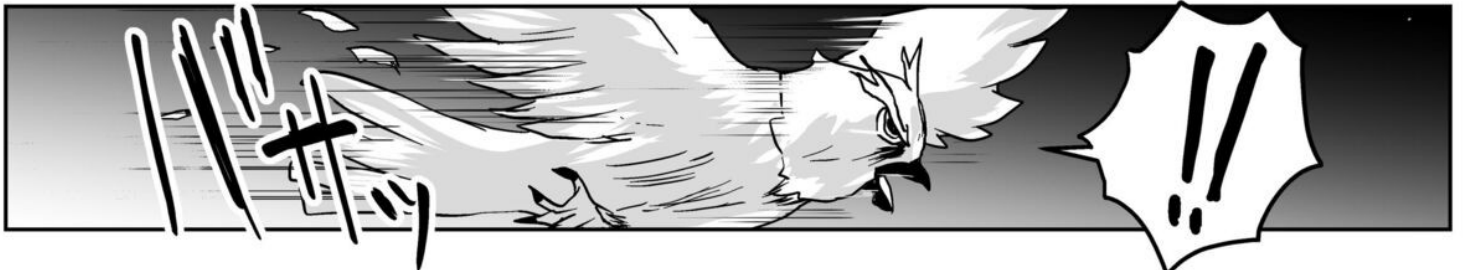
「ムーン
ストーン」

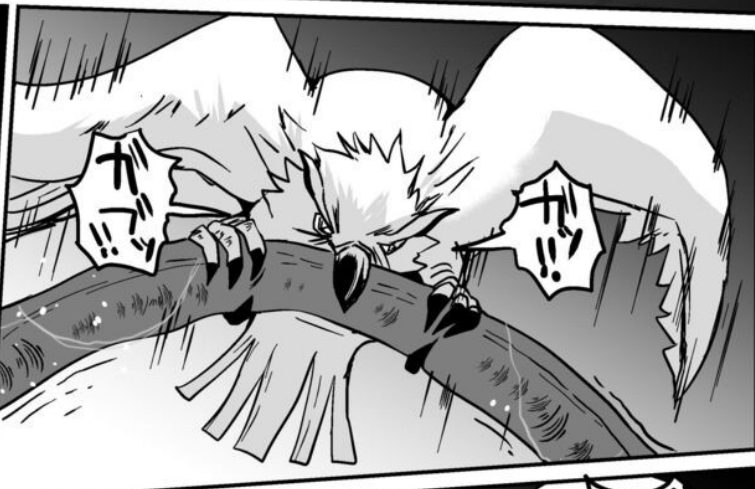
使える条件が
そろったかも
しれないの

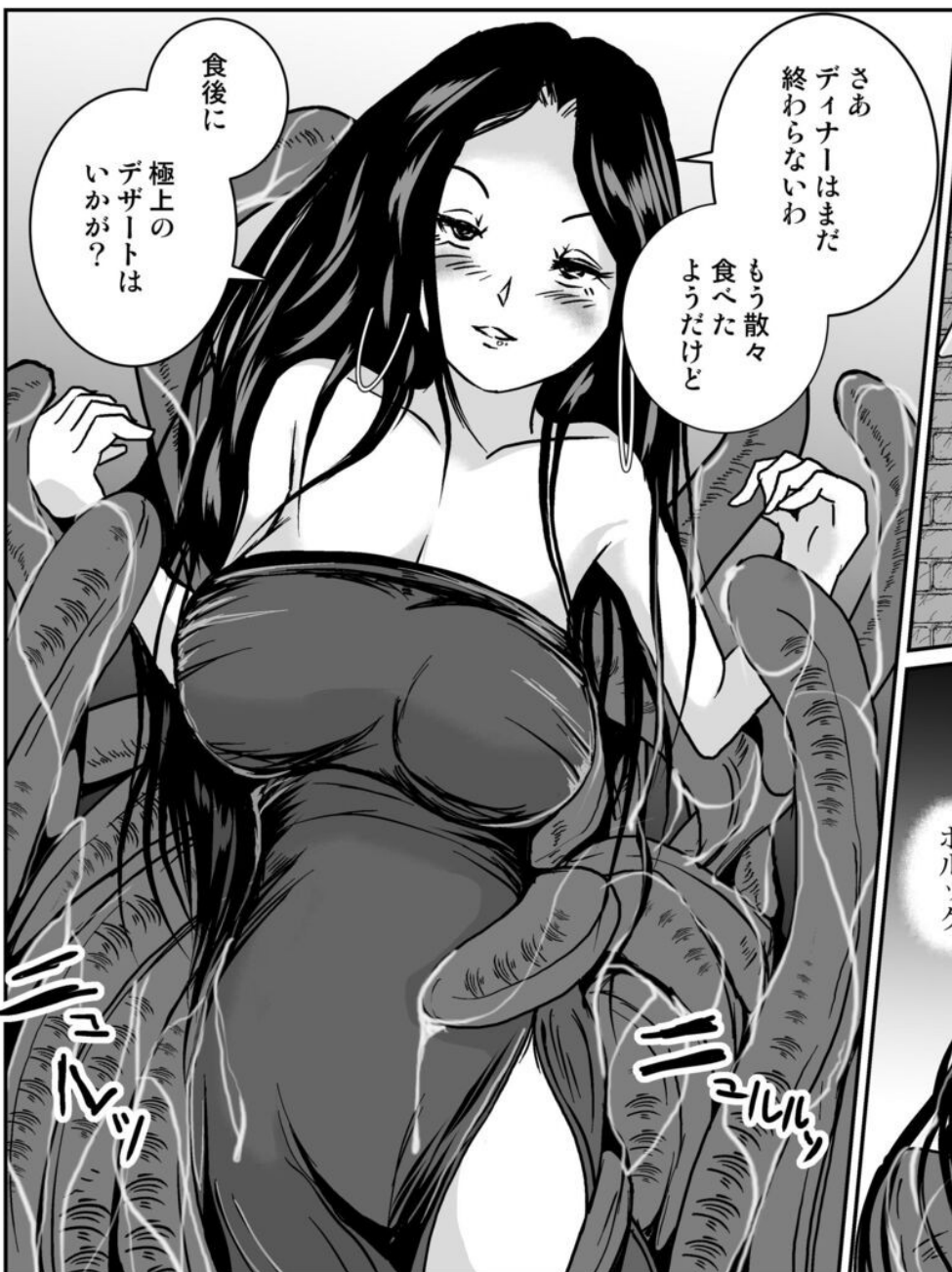
私たちの
この世界を

「ラーパタス」を

救え……







ポルックは
焦っていた

一刻も早く
石を手に入れて

こんな場所から
アウラと脱出
しなくては

屋上にはアウラの
言った通りに
「貴重な石」らしき
ものが……なんと

たくさんある！
しかも原石の
ままだ!?

それが
正解なんだ？

真ん中のは
宝珠じゃない

ブースター
増幅装置だ

アウラの研究室
にもある

どれだ？

どれでも
いいの？

いや……

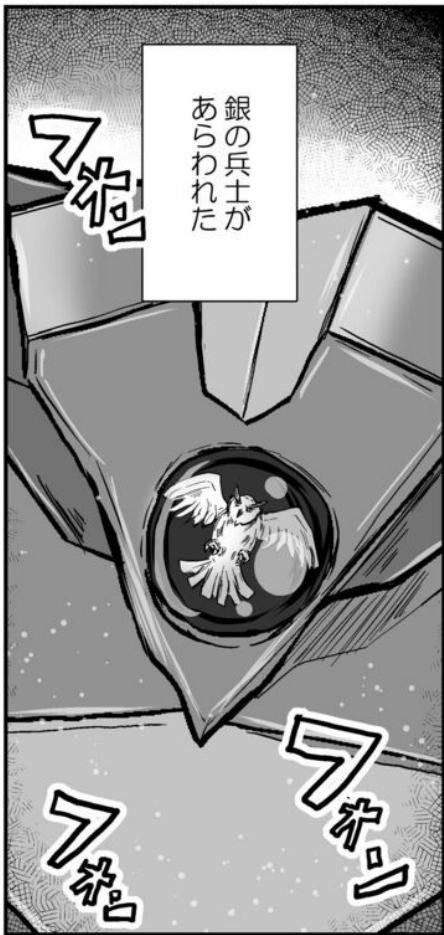
これだけ
明るい光に
照らされてるのに

「影が無い石」
が一つある

あれだ
間違いない

ポルックは
石にめがけて
急降下する

銀の兵士が
あらわれた



「時間を稼ぐ」

アウラは自分が
犯されている
間は

塔が
消えない事が
解っていた

しかし自分が
絶頂を繰り返し

ミミックに
呑み込まれ
意識を失い

「食事」が
終わってしまえば
塔は消えて
しまうだろう

最上階に配置された
銀の兵士は

ボムッ

対空用の
攻撃手段が
組み込まれ
ていた

ポルックは
必死に交わす
とても石に
近づけない

ボムッ

早くしないと
アウラが危ない
気ばかり焦る

しかし事態は
どんどん悪化
していく

銀の兵士の
数が増えて
行くのだ

攻撃は
激しさを増す

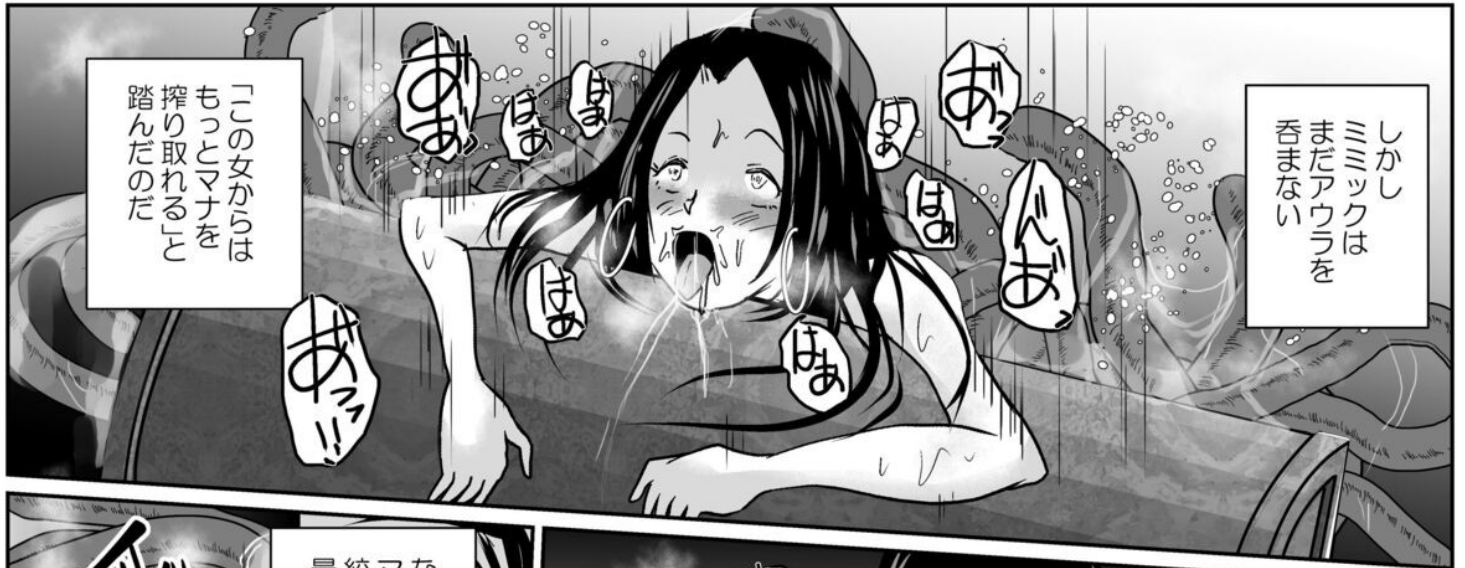
それでも
ポルックは
石を諦めない

……が
ついに
火の玉が

ブッ!!

ポルックに
直撃して
しまった





しかし
ミミックは
まだアウラを
呑まない

「この女からは
もっとマナを
搾り取れると
踏んだのだ



「ミミック」は
この塔の口であり

女たちから
吸い取ったマナは
この塔の「次元移動」
に使われる

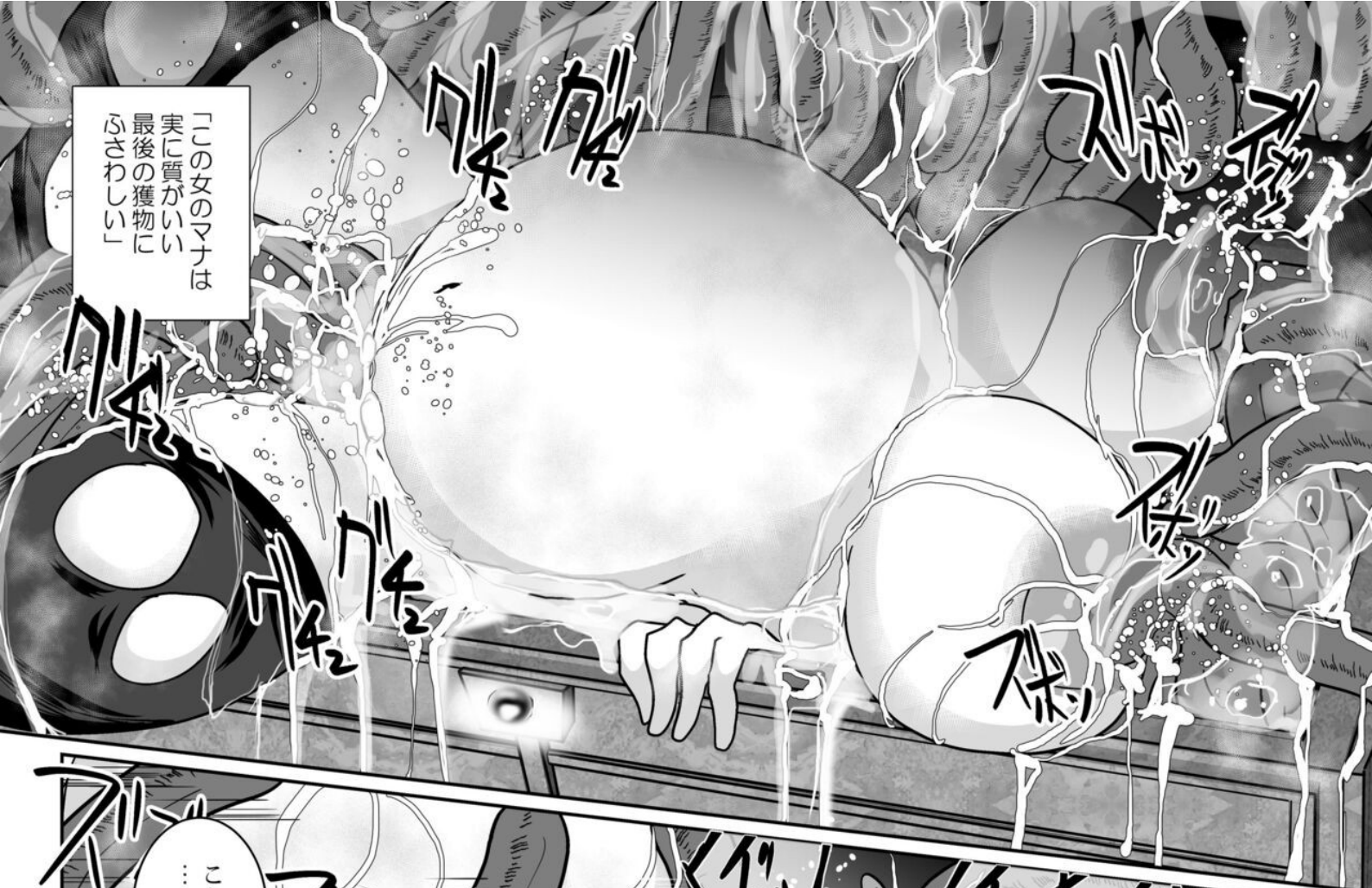
しかし
「非物質界」で
女の肉体を
維持するのは
効率が悪い

なので「物質界」で
マナを一滴残らず
絞りとるため「
最後に女を壊す」



その
最後の激痛を
強烈な快楽に
変える為

女をイかせて
「塔の精液」と
女を溶け合わせる



「この女のマンナは
実「質がいい
最後の獲物に
ふさわしい」



ダメ……

……こんなのは
……はじ……
……めて……



イカせられ続け
「塔の精液」を受容
したアウラの体は
パンパンに膨らみ

「最後の時」を
甘受する
準備が完了する

「食べごろ」だ



蓋が閉まってる

ミミックの

蓋は完全に閉まりアウラは呑み込まれた

箱の中では絶頂が止まらなくなり失神寸前のアウラが
なおもいき続け体も心も服従した濃厚なマナを体中から吹き出す

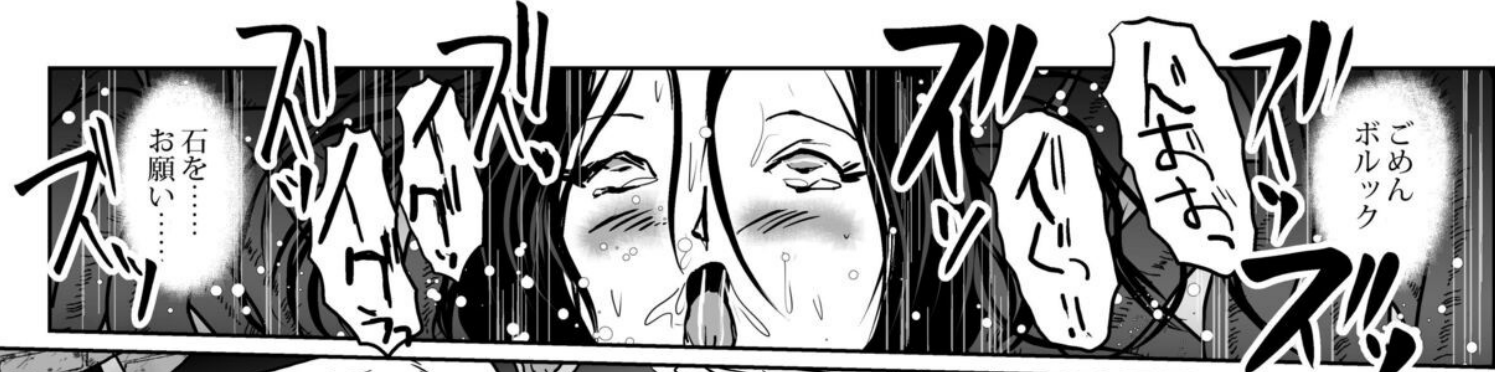


ミミックはアウラの体に触手を巻き付け「絞る」準備をする

「さあ最後にもう一絞りこの女の」

「肥沃で芳醇なマナを頂くとしよう」





ごめん
ボルック

石を……
お願い……



カッ

ズッ
ズッ
ズッ



ボルック!?

ボ……ル……?
ボルック……!?



ムーン
ストーン!?

見つけたのね!!



キッ

キッ





物質と非物質の
狭間にあるという
「ムーンストーン」

まだ「若い」この石を
アウラは何故
そんなにも欲しがったのか

ポルックには
解らなかつたが

詮索する気も
無かつた

END



高石ふう

【あとがき】

高石です。お楽しみいただけましたか。アウラさん危なかったです。ボルックが、頑張りました。塔と一緒に吸い込まれてしまったら、アウラさんの本をもう描けなくなるところでした。ありがとうございますボルック。また今回の丸呑みは、いままでよりデンジャーなヤツでした。くだんの塔は多分、ラーバタスの外の世界のかげらです。外の世界を見ると、いかに、ラーバタスという世界が異種姦エデンなのかよく解りますね。で、設定ですよ。何がどうでどうということなんだったって話ですよ。このあと数時間後に印刷所さんの締め切りでして、設定ページを作る時間と高石のHPがほとんど残っていません。やくそうも使い切ってしまったので、下のスペースに書けるだけ記述します。小さい文字ですみません。スマホの方は拡大を、同士初老ズはハズキルーペをご利用ください。それではまた次回のお話で！来年は平和な年になりますように 2022/12 高石ふう

【月の塔】

「さまよい塔 (RoverTower)」の一つ。物質界から他のプレーンに移動するので、ほぼ伝説上の存在。実際に見たことあるモノはよほどの魔法オタクだけである。上位宝珠や、初めて見るアイテムが見つかることから、異世界の大魔法使いが作った物ではないかと言われている。

【とんがり帽子の魔法使い】

近代魔法 (GEM Sorcery) が普及するはるか昔、魔法使いは精霊たちとの契約によって魔法を行使していた。魔法の習得には膨大な時間と学びが必要であり、精霊が女性体であることから (= 諸説あり) 男性魔法使いが圧倒的に優位を占めていた。

しかし歴史の中には稀に、「とつともなく強力な女魔法使い」が出現する。そして、彼女たちは例外なく、強力なモンスターを従えており、お互いに強い絆で結ばれていたという。当時の彼女たちが身に付けていたのが「とんがり帽子」である。

魔力で勝てず、面白くない男の魔法使いは、「彼女たちの魔力はモンスターと交わって得たものだ」と吹聴し、どの時代でも稀代の女魔法使いは国中からうとまれ、追いやられた。現代、とんがり帽子は「モンスターと好んで交わる女」のレッテル張りがされているが、アウラはそれをあえて身に付けている。一部のものは依然としてとんがり帽子を揶揄するが、アウラの人気も相まって、多くの人は気にしていない。

【アルダーストーン / 上位宝珠】

モンスタードロップなどで手に入れられる宝珠とは違い、かなりレアで強力なアイテム……の筈なのだが、使い方も解らない、使える者も居ないので、今や富豪のコレクションとしてのアイテムとなっている。歴史や伝承にはよく登場するが、その伝承も近年の冒険者ブームで随分都合よく書き換えられているので、どこまで本音が解ったものではない。アンバーも一般的には滅多にお目にかかれないアルダーストーンだが、常連の皆さまにとってはそれほど珍しくないかもしれない。

【ムーンストーン】

伝承上に出てくるアルダーストーンのひとつ。次元制御の力を持つと考えられている。本編では、塔の上にあり、月光を蓄えていた。当然、食われた女たちのマナも吸収していると考えられる。

【ミミック】

本編のミミックは、この塔の「口」として機能している。女のマナを吸収し、塔の維持力にしている。強力な触手は人間の体など簡単に壊す。ラー

バタスの世界では、モンスターも人間も LOST すると灰になって消えるので、色々都合がよいのだろう。

【宝箱】

月の塔にある宝箱の開錠は、すべてアンロックスペル (魔法) で行う。スペルは膨大な種類があるが、この適合スペルも「集合知」の攻略ページに乗っているようで、多くの侵入者が宝箱を難なく開錠し、貴重なアイテムを手に入れている。そしてそれをまた「集合知」で自慢するので、月の塔としては獲物が入り食い状態な訳である。ただ、昔は高レベル魔法使いしか来なかったのに、最近は「マナの質が低い」獲物が多いようで、数をこなすしかなくなっているようだ。

【銀の兵士】

塔のガーディアン。明らかに、ラーバタスの世界のものではない。これは塔の「手」である。侵入者を適度に追い返し、適度に侵入させる。食らう者、アイテムを奪っても見逃す者などは塔が判断しているようだが、判断基準は不明。塔内の並列空間を通じて全部で 13 体いるらしい。

【塔内の並列界構造】

同じ場所、同じ時間で、違うレイヤーに人間がいる。皆様の言葉を使えば四次元。これは物質界の時間軸進行に対して最も効率よくマナを採取できるシステムである。これは、ラーバタスの世界 (物質界) においては再現が不可能。理論化は難しいが、そういうものだと思ってしまうと、それほど難しくはない。探究心は大事だが、不安定なものを不安定なまま抱える事に慣れるべきだ。

【次元移動】

異世界への移動は、基本的に肉体を保ったまま行うとは出来ない (出来ても、その維持にものすごいエネルギーが必要)。皆様が来訪の際、そちらの世界での体を直接こちらに持ってくることは出来ないで、精神的存在でこちらにおいて頂いているのと同じ。

【巨大化するボルック】

モンスターが女魔法使いの為に戦うとなれば、上位宝珠の力であると考えるのが常識だろう。それが拾ったムーンストーンの力なのか……？ また、アウラは塔をひよいひよいと進めたのも、このような場所が初めてではなかった可能性がある。このあたりは、物語が進むことで、いずれ明らかになるだろう。

【奥付】

・誌名：「さまよえる塔の丸呑みミック」 ・初版：2022年12月31日 (C101) ・印刷：株式会社 栄光
・著者：高石ふう (support@larvatur.skr.jp) / Twitter：@lavatakoubou ・サークル名：らばた工房 (EroticFantasy ラーバタス) <http://www.larvatur.info>

See you on the next adventure.



Erotic Fantasy LARVATURS (らぼた工房)
DL販売 DL.site.com / FANZA.com

本作品は1次創作です。無断転載を禁止します。

Repost is prohibited.



らばた工房
告知用
Twitterです

